

中学校

数 学

理 科

保健体育

2009  
冬号

# 教育フォーラム

特集

## 移行措置期間中の指導のポイント 〔数学・理科〕

数 学：移行措置で新たに追加される内容とその指導

熊倉 啓之(静岡大学教育学部教授)

理 科：新学習指導要領における中学校「理科」の段階的移行について

熊野 善介(静岡大学教育学部教授)

エッセイ：井田 茂

大日本図書



の全国大会を開催している岡山県の健闘が目立ちます。県によっては第1チャレンジさえ、毎年1、2名しか参加しないところもあり、県による温度差が歴然としています。また、地方の進学校と呼ばれる公立高校やSSH (Super Science High School) からの参加者が少ないのは極めて残念です。

図3には、2008年の全国大会での理論試験(300点満点)および実験試験(200点満点)の成績の相関を示しています。理論試験の上位4名は2008年の国際物理オリンピック(ベトナム)日本代表選手ですが、彼らを含む高校3年生に混じって、高校2年生以下がよく健闘していることがわかります。特に、実験試験では高校2年生以下で優秀な成績を収めている選手が少なからずいます。理論的な知識は高校3年生にかなわなくとも、臨機応変な工夫が求められる実験試験で才能を発揮できる高2生以下がいるのです。

中国では、物理オリンピックの第1次国内

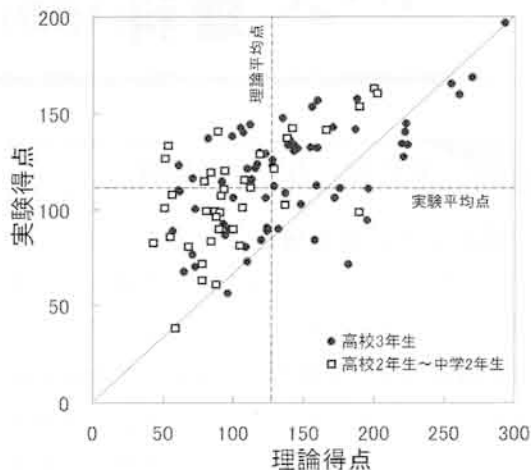


図3. 第2チャレンジ(2008年)の理論試験および実験試験の成績の相関

予選への応募者が10万人を超えるそうです。そのような裾野の広がりから、10年後20年後の国力の差となってしまうのではないかと危惧されます。高校野球と同じようにスポーツ感覚で、受験から解き放たれて、中学から理科や物理を勉強してオリンピックにチャレンジする生徒が増えて欲しいものです。



第2チャレンジでの集合写真(選手と役員、ボランティアたち)